

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1 38 39	理念やケア方針にも、本人の誇りや人格、尊厳を最大限尊重するという事を掲げケアに当たっているが、スタッフそれぞれで理解度・経験も違い、また、意識不足もあり、自分達も環境の一部であるという事を忘れてしまう瞬間がある。希望の表出を捉えるという部分においてもスキルアップが必要と感じている。	理念やケア方針の更なる浸透、及び、個々のニーズやレベルに応じた実践力・意識の向上	出勤スタッフ間で日常的に行うミニミーティングや、ケアカンファレンス、ユニット会議、また、OJTの機会を活かしながら、理念やケア方針の理解を深めるとともに、入居者主体の生活の場であるという事を意識付けし合い、チームケア・実践力の向上へ繋げていく。※ひもときシートやC-1-2、ふぁみりえケアプランなどのツールも、適宜活用。	12ヶ月
2	40 50	ケアの見える化を図った事により、本人のその人らしい暮らしをスタッフ間で共有する事ができ、チームケアの向上には繋がったが、アクティビティという点においては、不十分さを感じている。	日常生活の中で、やり甲斐感や充実感を感じて頂ける様、また、非日常的(旅行や外出)な取り組みも視野に入れた、個々のニーズの把握・実行力の向上	寄り合いの有効活用を行い、日常生活の中で役割や力の発揮の場面作りを共有していく。また、一つのカテゴリーを細分化し多くの入居者に力の発揮の場面となるよう取り組んでいく。非日常的な取り組みの実現として、旅行計画に家族・地域の方へもアプローチし、関係の構築や楽しみの場面、願いの実現に努めていく。	12ヶ月
3	54	共有スペースが広い為、家具等を用いて小スペースを作り、居心地のよいと感じられる場所で過ごして頂けるよう工夫しているが、臭いや音等により不快感を与えてしまっていると感じる。	お一人お一人にとって、寛げる居心地のよい場所、空間を目指していく。	毎食後のホール掃除やトイレ使用後のあとげき等、意識して取り組んでいく。居室に関しても、入居時のままとせず、馴染みの物や雰囲気のある程度維持しながら、今の状態・状況に合った環境づくりを行っていく。また、スタッフも環境の一部であるという事を、ケアカンファやユニット会議、OJTを通して伝え合い、お互いに意識付けを行っていく。	12ヶ月

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	39,40	入居者の方々、お一人おひとりの生活スタイル・生活リズム・希望を最大限に尊重、優先するように心がけているが、忙しさを言い訳に職員主体となってしまう場面も時にみられる。日々の会話の中で、入居者の方々の思いや希望を聞けるような取り組みをしていく事が、今後の課題である。	ふぁみりえの「理念とケア方針」に基づき、入居者の方々の思いや希望を最大限に尊重し、優先するように心がけ、一つひとつの言葉と行動を振り返り、職員主体でなく、入居者の方々の言葉や思いをくみ取れるよう意識していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふぁみりえの「理念とケア方針」を仕事に入る前に確認する。</li> <li>毎日の寄合を充実させる。(入居者の方々から意見をいただけるような声掛けや選択肢を用い、意向をくみとる。)</li> <li>日々の暮らしの中で、入居者お一人おひとりの生活パターン・スタイルを尊重しつつ、入居者の方々のケアプランを見直し、日々の暮らしの場面に活かす。</li> </ul>	12ヶ月
2	55,57	入居者の方々の共有空間である小居間が、職員の配慮なで、気持ちよく過ごせる場所になっていない現状がある。ソファーやテーブルの位置や気の合った入居者同士で過ごせる居場所作り、入居者の導線を見直し、身体機能を十分活かした共有スペースの環境作りが課題である。	入居者の方々の共有空間を活用できる場所作りや入居者の導線を見直し、身体機能を活かしつつ、生活の場所としての雰囲気のある環境作りを心がける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>入居者の共有空間であることを忘れず、共有空間を活用できるように常に意識して片づける。</li> <li>小居間の畳の上でゆっくり気持ちよく過ごして頂けるようテーブルや座椅子を活用する。</li> <li>入居者の導線や身体機能の見直しをする。</li> <li>車いすの置き場所の見直しをする。</li> <li>ソファーや家具等の配置の見直しをする。</li> <li>すべての入居者に合った環境作りも限界があり、職員も環境の一部として、不足している箇所を補う。</li> </ul>	6ヶ月

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	40・47	常に入居者に対して希望などを聞き取り確認しているが、入浴や掃除などにおいて、滞ってしまっている入居者を優先してしまうことがある。	出来るだけ入居者の希望に沿った入浴や外出、その日の意向などの対応にあたっていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各々の入居者の1日の流れを今一度職員間で情報共有し、再確認を行う。</li> <li>・毎日の”朝の寄り合い”の中でこれまで以上に入居者の意向を汲み取っていくことが出来るよう工夫したり、聞き取りの強化を図る。</li> </ul>	6～12ヶ月
2	54	ホール内に色々な物を飾るなどして、生活感、季節感を取り入れているが(たとえば日々の写真、七夕、クリスマスの飾りなど)時間が過ぎても飾りっぱなしである事がある。	共有空間において入居者の皆様が居心地よく穏やかに過ごすことができるように、季節、時節を感じる事が出来るようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な展示物、掲示物の入れ替えを行う(入居者のアクティビティの作品、日々の写真、季節の飾りなど)</li> <li>・朝の寄り合いでそれらを話題として出すことで入居者と一緒に飾ったり、片付けたりを行う。</li> <li>・ユニット会議などでホール内の環境整備について定期的に議題に上げ、話し合う。</li> </ul>	6～12ヶ月
3	20	入居者の残存能力を大切にし、日々の暮らしの中や入居者のアクティビティの場面で、力を発揮できる場を作っているが、業務や等の時間に追われ、力を奪っている場面も見られる。	日常の中で入居者が残存能力を活かし、役割やアクティビティの中で力の発揮出来る場を出来るだけ多く提供して行く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各入居者の自己資源バスケット、一日の流れの見直しを行い、入居者の今の状態を職員皆で情報共有する。</li> <li>・生活暦など家族への聞き取りを再度行い、好まれることや得意なことを再確認し、日々役割やアクティビティに繋げていく。</li> </ul>	6～12ヶ月